

KiKiの広場

2024年 3月 1日
cafe NO.161
KiKi



今年は4年に1度のうるう年でしたが、2月が1日多いと感じる間もなく、あっという間に3月がきたような気がします。寒暖差が激しい2月でしたが、冬とは思えないような温かい日が続いたりしました。そのせいか、今年は桜の開花がいつもより1週間くらい早くなっているようです。すでに花見を楽しまれている方もおられますが、美しいものを心から美しいと思える・感じられるのは、つくづく幸せなことだと思います。日本だけでなく世界でも、そんな状況どころではない人々がたくさんおられます。辛く厳しい日々を過ごされている方たちに、どうか心穏やかな春が少しでも早くくることを願ってやみません。

3月の予定

休館日	12日(火)
定休日	毎土・日・月曜日



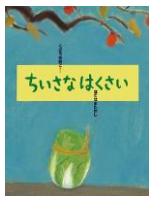
「気まぐれシェフのKiKi オリジナルシフォンケーキ」

「ひな祭りシフォンケーキ」 300円

桃の花・雪・よもぎのひし餅カラーのシフォンケーキです。いちご・プレーン・抹茶の3つの味をお楽しみください。3月後半は桜に変身するかも。お楽しみに

今月のお気に入り・・・「春の気配を感じる絵本」

～「ちいさなはくさい」「はるかぜのたいこ」「ファーティーのはる」「たんぽぽはたんぽぽ」「きんのたまごのほん」などなど～



「ちいさなはくさい」は、文は工藤直子さん、絵はほてはまたかしさんです。畑からはみ出してしまったちいさな白菜と、その白菜を優しく見守る柿の木とのやり取りが微笑ましく、工藤さんの美しい文章とほてはまさんの力強い絵から、ちいさな白菜を慈しむ想いが感じられます。「はるかぜのたいこ」、文は

「うさぎのくれたバレエシューズ」の安房直子さん、絵は葉祥明さんです。太鼓の音と共に春の温かさが伝わってきます。葉さんの淡く優しい絵、特に一面菜の花のシーン、とても素敵です。



今月の本棚・・・「福音館の幼児絵本シリーズ」

～「いちご」「くろねこかあさん」「めのみどあけろ」「ずかん・じどうしゃ」「とんとんとめてくださいな」「ぞうさん」などなど～



平山和子さんの「いちご」は、誰もが心惹かれる絵本だと思います。描かれたいちごは本物以上に美味しそうです。「わたしはいちごです」から始まって、「いただきます」までの淡々としたやり取りも楽しいです。「くろねこかあさん」は、くろねこのおかあさんが6匹の赤ちゃんを生むところから始まります。

生まれたのは、3匹のしろいねこと3匹のくろいねこ。切り絵ならではの面白さ、白と黒のコントラストがきれいで楽しい絵本です。作者は東君平さん、46歳という若さで急逝されています。こんな斬新なアイデアの本が作られたのは約40年前。アンパンマンのやなせたかしさんが、東さんのことを「超天才、駄作は一篇もない」と言われていたとか。ぜひ他の本も読んでみたくなりました。



ほっとフレイク

胡蝶蘭その16・・・もしかして8度咲きなるか！！今カウンターの上には5つの胡蝶蘭の鉢があります。報告を忘れていましたが、昨年の秋に5代目の鉢が仲間入りをしました。花たちが枯れてしばらくの間枝だけの状態で、鉢を見る度に寂しい思いをしていましたが、気が付くとそれぞれに新しい枝が伸びてきていました。実は5代目はエントランスに飾っていたのですが、落ちて鉢が割れてしまって植え替えたので大丈夫か気になっていましたが、可愛い



初代



3代目



4代目

小さな芽が伸びていました。ただ、相変わらず二代目だけ葉のままで枝が出てきません。色々調べてみましたが、葉と根は元気なので、ここは2代目の生命力を信じて、辛抱強く待ってみようと思います。



2代目



5代目



5代目